

令和 8 年度進行管理 **戦略点検シート**

◎基本政策 3 活力と魅力あふれるまちの創造

主要課題	No. 33	文化資源を活用した文化芸術の振興
------	--------	------------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●		主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。
4年後の目指す姿	多くの区民が、本区ゆかりの文化人等を通して地域の文化に親しみを持つとともに、歴史や文化の香り高い本区の魅力を認識している。	
計画期間の方向性	○誰もが文化芸術に親しむことができる機会の創出 文化芸術施設等との連携等により、誰もが文化芸術を身近に鑑賞し、参加できる機会を充実させるとともに、それらの活動を支える人材育成を積極的に進めることで、区民がより一層文化芸術に親しむことのできる機会の創出に取り組みます。 ○文化資源の魅力の再発見と活用 区ゆかりの文化人や能楽、競技かるた等の文化資源を活用し、文の京ゆかりの文化人顕彰事業等を通じて、その魅力を区内外に発信することで、地域に存在する文化資源の再発見につなげていきます。	

事業費（令和7年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績）											
戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。											
事業番号	事業名称			所管課		事業の持つ役割					
	文化育成事業			アカデミー推進課		区に根付いた文化芸術の継承と更なる振興を図る。					
						26,416千円 (39,025千円)					
	主な取組実績				単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 文化芸術の発表会等参加者数				人	10,504	11,902	10,620	13,656		
	② 能楽関係事業参加者数				人	2,752	2,244	2,200	1,958		
123	③ 競技かるた講師の区立学校派遣校数				校	3	5	5	5		
	R5(2023)	コロナ禍で休止していた吟剣詩舞道大会、日本舞踊のつどい及び文化祭茶会を再開しました。									
	R6(2024)	「文京区×ちはやふるの世界展」を6日間開催し、延べ2,129人が来場しました。また、かるた講師派遣について、区立学校に加えて児童館・育成室への派遣を行いました。									
	R7(2025)	障害者アートの展示を4日間開催し、延べ832人が来場しました。また、かるた謎解き展では、謎解きをメインに、区のかるた事業を紹介するパネル展示や動画の放映、競技かるた体験などを実施し、延べ1,549人が来場しました。									
124	文京シビックホール（響きの森文京公会堂）における文化芸術活動の推進			アカデミー推進課		多様な文化芸術の発信拠点としての運営を図る。					202,388千円 (205,715千円)
	主な取組実績				単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① アウトリーチ事業実施数				公演	38	37	38	38		
	② 文化育成事業参加者数				人	1,231	4,614	5,205	5,454		
	③ 近隣ホールや芸術団体との連携公演数				公演	15	40	59	54		
	文の京ゆかりの文化人顕彰事業			アカデミー推進課		本区の多様な文化的資源を継承・発掘する。					3,388千円 (3,589千円)
	主な取組実績				単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 朗読コンテスト応募者数				人	256	274	274	298		
125	② 歴史講演会参加人数				人	87	107	90	152		
	③ 史跡めぐり参加人数				人	21	43	17	50		
	R5(2023)	友好都市提携締結5周年を迎えた盛岡市ゆかりの宮沢賢治作品を課題作とした朗読コンテストを開催しました。また、小石川植物園と共催し牧野富太郎をテーマとした歴史講演会を開催しました。									
	R6(2024)	友好交流都市協定締結5周年を迎えた金沢市ゆかりの作家の作品を課題作とした朗読コンテストを開催しました。また、生誕140年を迎えた竹久夢二をテーマとした歴史講演会を開催しました。									
	R7(2025)				熊本県・熊本市・新宿区との「文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書」締結10周年を記念し、ゆかりの作家の作品を課題作とした朗読コンテストを開催しました。また、夏目漱石をテーマとした歴史講演会を開催しました。						

文京ふるさと歴史館の特別展、普及事業			アカデミー推進課		本区の歴史的・文化的資源について、区民の理解を深める。					3,094千円 (3,738千円)	
主な取組実績					単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
① 特別展入館者数					人	2,344	2,432	3,009	—		
② 収蔵品展入館者数					人	1,537	2,485	—	1,559		
③ 歴史教室参加者数					人	342	184	234	139		
126	R5(2023)	全国藩校サミット文京大会関連事業として令和4年に国史跡指定100周年を迎えた湯島聖堂の歴史や文化を紹介した特別展や、天気という身近なテーマで収蔵品を紹介した収蔵品展など、多様なテーマで区の魅力を広く紹介しました。									
	R6(2024)	夏休み期間に小・中学生を対象に館内展示についてクイズ形式で行った歴史教室、江戸の水道網の中から文京区とゆかりの深い神田上水や千川上水について、また近代の上下水道の整備について東京都水道歴史館、新宿区立歴史博物館と合同で紹介した特別展などで区の魅力を紹介しました。 夏の高温多湿により展示室の温湿度の調整が困難になったため収蔵品展は休止しました。									
	R7(2025)	小・中学生を対象にお気に入りの展示資料の絵や特徴、気に入った点をワークシートに記入してもらう歴史教室、文京区が近代女子教育の中心地であったことから女子教育高等機関の歴史を紹介したパネル展（収蔵品展）をシビックアートサロンで行いました。なお、特別展示室の環境が歴史資料の展示に適さなかったため、特別展は休止しました。 また、区立図書館と協力し、貸出しレシート持参の方が無料入館できるキャンペーンを行いました。									
●特記事項（実績の補足）											
行財政運営の視点						取組実績					
行財政運営	文京ふるさと歴史館については、令和5年4月に施行された改正博物館法や、これまでの検討内容を踏まえ、「予防保全型」の考え方を基本として、中長期的な施設のあり方を検討するとともに、歴史資料の保管及び効果的な展示のあり方並びに情報発信の方法、展示機能等について検討していきます。					歴史資料の保存と環境負荷の低減を両立するため、従来の薬剤の使用を中止し、「予防保全型」の考えを取り入れた収蔵庫内の清掃処理を行いました。施設の老朽化により温湿度調整に不具合があったため、外壁及び屋上改修工事実施設計その他調査等を委託し、また、令和8年度展示室照明のLED化工事を予算化しました。 長期的な施設のあり方は、引き続き検討していきます。					

2 社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）	
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）	

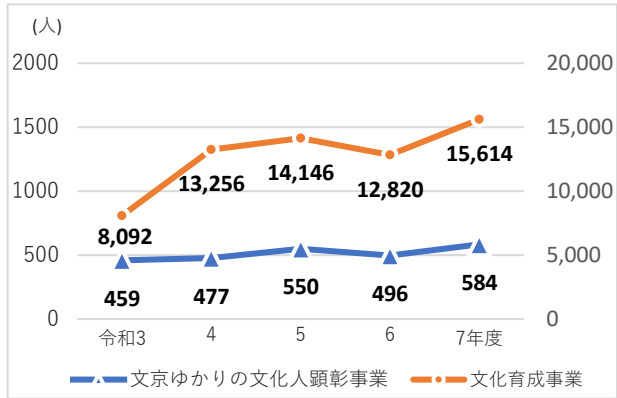
3 成果や課題は何か（点検・分析）		1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。
○誰もが文化芸術に親しむことができる機会の創出		
障害者アートの展示では、創作者の背景を理解しながら鑑賞できるようなキャプションの作成やギャラリートークを実施したことで、作品及び障害について理解を深めていただく機会を提供しました。また、十分な作品数の確保が今後の課題です。 文化芸術の鑑賞においては、令和6年12月から7年6月までの間に実施したシビックホール開館25周年記念公演に併せて、同内容を周知するラッピングを施したコミュニティバスを運行し、幅広い広報に努めるとともに、様々なジャンルの鑑賞機会を提供しました。		

○文化資源の魅力の再発見と活用

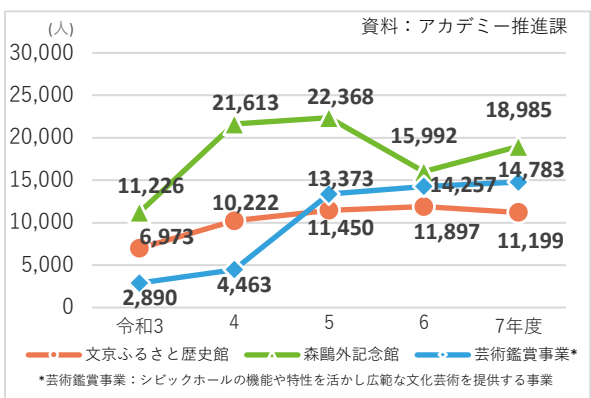
かるた謎解き展では、謎解きに加え、かるた事業パネルの展示・競技かるた体験・デモンストレーションを実施し、競技かるたの魅力を発信するとともに、身近に感じられる機会を提供しました。

能楽では、親子の体験プログラムである能プロジェクトや気軽に触れる機会としての区民能楽鑑賞会のほか、生涯学習と連携した能楽講座を実施することで、能の魅力を座学として学び、より身近に感じることのできる機会を提供しました。

●文化人顕彰事業・文化育成事業参加人数の推移



●芸術鑑賞の観覧者数及び区立施設の来場者数の推移



【SDGsの視点】



歴史教室において、小・中学生を対象に興味を持った展示資料のシートを作成してもらう企画を実施しました。それにより文京区の歴史と文化について関心を持ち、理解を深めてもらうほか、自身が抱いた思いを言葉にする機会を提供しました。



森鷗外記念館において、台東区・北区・荒川区と連携し「五館文学めぐり」を実施しました。夏休み期間中の来館者が増加し、小中学生の参加も多くみられました。

4 今後どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。

経年劣化により不具合の生じてきた施設の今後のあり方や資料の保管について引き続き検討するとともに、各種事業や展示について、より魅力的な発信を行っていきます。

能楽や競技かるた及び文の京ミュージアムネットワーク加入施設等の貴重な文化資源を広く周知するため、今後も区内関係団体と連携し、鑑賞や体験を取り入れたプログラムの実施やマップを作成します。また、引き続き障害者アートの展示を行い、区民がより一層文化芸術に親しむことのできる機会を創出します。